

# 楽々通信

第130回 NPO 法人楽の会リーラ 月例会

【日時】2025年6月21日(土)13時30分～16時45分

【場所】豊島区センタースクエア

【主催】NPO 法人楽の会リーラ 【共催】豊島区

1. 事務局から連絡：家族教室「CRAFT」、北区等からの委託事業、等の案内。
2. 施設紹介：小林良子 氏 一般社団法人早稲田すばいく代表（民間相談機関連絡協議会運営委員）
3. 講演：80－50問題における兄弟姉妹の悩みと対応 ～家族（親）としては、どのような配慮が必要か～

講師：深谷 守貞 氏 NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 ソーシャルワーカー

【要旨】 下記ご講演資料から印象に残った内容の抜粋です。親としてどのように考え、取り組んだらよいか深谷氏の支援経験とソーシャルワーカーとしての知見を講演していただきました。尚、当日は体調崩されたため、ズームをつかったの放映となりました。

1. 不登校から兄弟姉妹、80－50、等現状の説明。
2. KHJ 兄弟姉妹の会についての経緯と活動概要

KHJ の調査：兄弟姉妹の居る本人年齢では 40 代・50 代で 7 割を占める。親は、70 代・80 代で 8 割弱を占める。

3. 課題と取り組み：「親子関係と異なるきょうだいという立ち位置と距離感」

・“ひきこもり”というスティグマ（社会的偏見）ゆえ、悩みを表せない ・同時代、同じ世代を生きているがゆえ、親世代とは異なる悩みがある・ひきこもり本人も親も問題を抱え込んでしまい、きょうだい自身も相談することに罪悪感を感じてしまうことがある。・先取り不安に囚われてしまう（特に 8050 を見据えて） ・自分の将来、ひきこもり本人や親の今後を考えると不安ばかりになる ・ひきこもり本人の生活と自分の生活（将来）の負担感 ・親が倒れる等の緊急時の対応と今後への不安

「親の育て方を責めたり、本人を責めたり…」 ・先取り不安を吐き出せる場がない、解決が見えないことへの焦り ・ひきこもり本人の存在が自分の生活や将来にどう影響を及ぼすか不安 ・親が抱え込むことで、家族の中で解決しなければならないという囚われ。→不安や課題を整理しながら、関わり方を共に探ることが大切！

「親が兄弟姉妹にできること」 親が抱え込まないで、親が支援機関や支援者に頼って欲しい

・親が自分で抱え込んでも、何も解決しない。専門家につながって欲しい ・親の悩みこそ、家族会で分かち合い、家族会の中で癒して欲しい ・親が外とつながるから、本人も外につながっていくことを理解して欲しい ・きょうだいは親代わりになれないことを知って欲しい

「事例紹介」「生活保護」の説明、「社会資源」との繋がり、等事例も交えて説明あった。

## 「最後に周囲の兄弟姉妹への関り」

きょうだい自身の生活や将来、きょうだいの意向を尊重する ・きょうだいも家族として心配していることを慮り、なるべく家族や本人の状況を家族で共有しておく ・きょうだいが親や本人を責めるときは不安の高まりから ⇒きょうだいの将来に影響が出ないように制度を活用して安心感を促す

・きょうだいが自分のことを優先したいときは、きょうだいの判断に委ねる ・きょうだいに寄り掛かり過ぎないように、支援者や家族会を活用していく ・きょうだいと本人の関係性には、親は口出しせず子どもに委ねる ⇒「きょうだい仲良く」は、時に罪悪感を掻き立てる呪縛になる

・財産だけでなく、親の周囲との関係性も資産として遺すことを意識する

文責：運営委員